

EVENT 町の厚い歴史に導かれた。

●やるべ福島イカ祭り

夏のフィナーレを、弾けるパワーで彩る。
夏合宿中の九重部屋の力士達や、地元町民、帰省客
や観光客が交わって町中祭り一色！！



●九重部屋の力士と「綱引き大会」



●福島の特産品を生かした「スルメ釣り大会」。
毎年趣向を凝らした様々なイベントが行われている。



●津軽海峡をバックに「海峡花火大会」。

●その他の主なイベント



●殿様街道探訪ウォーク：福島から知内に
至る古道をウォークし、歴史を体感する
というイベントで千軒十割そばも堪能で
きる。

●千軒そばの花観賞会：千軒地区の真っ白
に染まったそば畑で道無形民俗文化財の
松前神楽奏上やイモ掘り体験などができ
る。



●えぞキリシタン殉教の地：キリシタン弾
圧による信者106人が処刑された、千
軒金山番所跡に十字架が建てられ、毎年
7月最後の日曜日に巡礼ミサが行われ
る。

●南北海道駅伝競走大会：道内から約15
0チームが参加し、11月に開催される。



●名産物「千軒そば」

注目浴びる千軒そば

●ジワリと人気に登り調子の千軒そば。そば畑を望みながら千軒十割そばを味わう素朴な趣が、ちょっとしたブームになっている。

水産加工品と共に、農産品の強化を図り産地から新しい食文化の提案を目指すと共に、作付け面積の拡大支援等を行っている。



●千軒十割そば

●「横綱椎茸」のブランド急上昇。原木による椎茸ハウス栽培で、北海道産の椎茸という事でも珍しがられている。原木確保と生産・販売支援に努めている。



●「横綱椎茸」栽培

●農村生活工夫展

福島町生活改善グループの主催による福島町農村生活工夫展が、12月に福祉センターで行われる。漬け物や食品加工の味見をしたり、豆類等の販売も行われ、開店早々販売コーナーの前には多くの人が訪れている。



●農村生活工夫展

●木のニーズも知識も高い。

輸入材との競合で国内の林業は建て直しが迫られているが、木に対するニーズや知識は高まっている。福島町の林業はスギ材が大半を占め、伐期を迎える材部も多く、「道南スギ」としての優良材の生産に努めるとともに、豊かな森林資源の保育管理を進めている。

fukushima
福島町はつつ創り

※知恵とハートで拓くまち：【生活環境】

自然を日常に、自然を汗する。

●生活環境

新幹線着工、
交通体系の再構築へ。

●新幹線着工に伴い、交通体系の再構築が求められている。安全確保、地域的な道路のあり方、緊急度など国道、地域高規格道路、道々、町道の、それぞれの役割と共に進めている。



●ゴミ処理/防災

大きな快適、安心へのステップ。

- ゴミの減量作戦として、なまゴミの堆肥化を目指し、コンポストや電動処理機等の購入助成を実施している。ゴミや不法投棄防止対策としては環境監視員等の巡回強化等を図るなど住み良い衛生的な環境の維持を迫している。
- 毎年沿岸部の町内会を対象として、避難訓練を実施している。しかし地域住民の高齢化により初動活動での不安が残る事から、有事の際には公的機関と地域住民が連携して迅速に対応体制整備に努めている。
- 町営住宅は、建設事業としての工事が丸山地区において進められており、既存住宅についても適当な維持管理についても適切維持管理に努めている。

2015年度末北海道新幹線開業 (予定)

つながる! ひろがる!
北海道新幹線





※知恵とハートで拓くまち：【保健/福祉】

健やかに暮らす習慣づくり。

●子育て支援

安心して仕事ができるように。

●子育て支援 社会環境の変化により、子育てを支える保育所の役割は重要になっており、次世代育成支援行動計画に基づいた保育体制の充実を図っている。低学年の児童を持つ家庭において保護者が安心して仕事ができるよう、放課後保育に欠ける児童を対象に、福島小学校の空き教室を利用して学童保育を実施している。



●ニーズに即した保育事業

子供の挙動から、愛を学ぶ。

●社会的な少子化傾向の波の中で、幼児人口が減少している反面、共働き家庭や母子家庭は増加傾向にある。このような状況を踏まえて、保育時間の延長の他、時間差出勤などにより一時的に家庭保育が困難となる児童に対しての「一時保育事業」を実施します。社会傾向の変化によって支援サービスのニーズが変化することを踏まえ、支援メニューづくりをきめ細かに進めます。



●高齢者支援

皆の温もりもらって、自立感。

●高齢者の一人暮らしや夫婦だけの世帯が増えている。高齢者が積極的に健康維持に取り組み、自立意欲を養う機会づくりを進めている。介護予防や生活支援・自立支援の一貫としてふれあいスポーツ大会・温泉優待事業・敬老会などのほか、既存の施設をフル活用しながら介護予防や生活支援の充実を図っている。

●健康フェスティバル 健康でいきいき暮らすことは家族皆の願いであり、毎年9月の第一日曜日に健康をテーマとして健康フェスティバルを行っています。福島医歯会、健康づくり推進員などの民間が中心となって、健康イベントを通じて住民健康意識の高揚に努めます

●障害者自立支援

積極的に機会づくり

●障害者自立支援 地域活動支援センターを中心に、障害者とそれを支えるボランティアの交流の輪が広がりを見せており、自立に向けた就労意欲を促し、障害者が地域で自立できるよう支援しています。

●健康づくり支援 健康ウォーキング教室、健康料理教室及び国保ヘルスアップ事業を積極的に展開し、健康増進及び疾病予防対策を通じて将来的な医療費増加の抑制に努めている。高齢者の方々ができる限り健康で、生き生きとした生活を送ることができるよう、地域包括支援センターを中心に介護を推進します。



●健康フェスティバル





※知恵とハートで拓くまち：【教育/文化】

北を拓いた発祥地の誇り。

●心豊かな子供達の育成
「生きる力」を培う

●少子高齢化が顕著な中で、教育環境も急激な変化で進行している。このため家庭と学校、地域の関係をさらに強めながら、児童生徒を事件事故から守るため、あらゆる機会を通じて「生きる力」を培う教育を積極的に推進していく。町民憲章の理念と福島町教育目標に基づき「心豊かで逞しい子供達の育成」と「生涯学習」の推進を図り、教育のあらゆる分野において、「人間力」向上のための教育改革を推進していく。

●知育・徳育・体育・食育の調和のとれた教育を行い、豊かな心・健やかな身体を育むための学校づくりを目指す。

●子供達が被害者となる犯罪から守るために地域ぐるみの体制を築き、犯罪・事故防止教育を関係団体、機関と連携を図り進める。

●国際感覚を高めるために、語学指導を行う外国人招致事業を引き続き推進する。



●田植え学習



●パソコン教室



●AET学習



●読み語り学習



- 芸術文化に触れる機会を暮らしに。
郷土の文化財の継承保護

- 北海道文化財に指定されている「宮歌文書」や既存の文化財等を保存活用するとともに、郷土芸能の継承や保護に努める。



◎白符荒馬踊り

武勇をあらわす、激しい舞。

松前藩による蝦夷地領定の武威を表す踊りと伝えられている。津軽ねぶたによく似た松前神楽の七穴竜笛の音曲にのって、馬上での戦いと勝利を舞うもので、「荒馬踊り」「棒振り踊り」「きね振り舞」「セヤセヤ舞」の4種類で構成され、白符七夕祭り家イベントでも舞われている。



◎松前神楽

エゾ地方初舞の神楽。

寛文2年(1662)頃、太陽も月も真っ赤に浮いているだけで、国中が灯火をともしほど暗い日が続いたことから、村人たちが暗雲無消を祈って神明社(現・福島大神宮)で神楽奉納をしたのが始まりとされている。これが蝦夷地方初舞の神楽と知られ、平成30年3月に国の重要無形民俗文化財の指定を受けている。

◎大名行列

福島大神宮例大祭

毎年9月中旬の4日間、秋を彩る福島大神宮例大祭。古式ゆかしい大名行列をはじめ奴行列、四カ散米(しかさご)行列が続き、10数台程の山車が町中を練り歩き、見物客を時代絵巻の世界へ誘います。





※知恵とハートで拓くまち：【位置/地勢/人口】
行政/議会。

行政

福島町は、町民と協働によるまちづくりを進めるため、まちづくり基本条例に基づき、まちづくりの主体である町民と、町民からまちづくりの仕事を託された議会・行政が一体となって、「住んでいてよかった」「これからも住み続けたい」と思えるまちづくりの創造を目指します。



鳴海 清春 町長



高木 壽 副町長



前田 勝広 教育長

議会



溝部 幸基 議長



平野 隆雄 副議長



その残党が、和人初の蝦夷地定着。

福島町の開基は、文治5年（1189）源頼朝の奥州征伐の際、破れた奥州藤原の残党が津軽から逃げ渡り吉岡村に定住したのが始まりとされている。その、奥州藤原は平泉に拠って陸奥、出羽の両国と蝦夷にまで勢力を伸ばした「北方王国の王者」といわれ、「平泉政権」と呼ばれるほどの地域政治を行っていた実力者だった。つまり、原氏・平家対立の時代は清盛、頼朝にならぶ第3の政権と目されていた。陸奥藤原は四代・一世紀に渡って栄華を誇り、特に三代目秀衡の時代が絶頂期。平家を倒した頼朝にも服従せず、当時国家の反逆人とされた義経を庇護した。この義経問題が引き金となって、頼朝は「奥州征伐」の兵を出し、奥州藤原を滅ぼした。藤原氏残党は四代目・泰衡の遺志を請けて、勢力を整え再び立ち上がるために津軽海峡を渡り、吉岡にも流人が定着したといわれている。

安東氏と武将達の到来。

津軽の十三湊に居住し、強力な水軍を擁する安東盛季が、南部義政に敗れ、息子や孫と共に蝦夷に渡来したのは永享四年（1432）といわれている。盛季の没後、松前で兵を貯えていた息子の安東康季が文安三年（1446）失地挽回の軍を津軽に出兵したが、鱒ヶ沢（西津軽郡）で陣没し、孫の義季は享徳二年（1453）大浦郷狼倉（岩木山東麓）で南部軍と交戦して戦死。この頃南部氏の捕虜になり糖部田南部に在った下国安東太政季は、南部氏から逃れて大畑（青森下北）から享徳三年（1454）、蝦夷地に渡航した。その時の随行武将は、後の松前氏の初祖・武田信広、松前大館の副将・相原周防政胤、箱館主の河野政道たちだった。政季は道南に12の「館」を配し、地域を統治した。福島町・吉岡地区には「院内館」が置かれ秋田出身の蔭士甲斐の守季直が館主となった。季直没後、二世兵倉之助季成が継いでいる。

北海道史の第一歩を印す。

●道内初の漁師が定住したのも福島町で、白府地区が「ニシン漁発祥の地」とされている。●大千軒岳の麓に金山が発見されゴールドラッシュに賑った。金掘りの中には「隠れキリシタン」が紛れ、幕府の命によるキリシタン106名の処刑という悲劇も起った。●幕府にはこの辺一体が、新政府軍と旧幕府との激しい戦いの場となり、やがて新しい時代の幕開けを迎えた。●近代の福島町史のエポックは、青函トンネルの町として、世紀のトンネル工事にかかわりを持ったことだ。町民の中からも海原を駆け回って魚を追っていた漁師から、多くの世界的トンネル技術者となって海底に潜り、貴重な人材として国内外で活躍している。

